

骨炭

基本情報

英名： Bone Charcoal
CAS No.： 8021-99-6
JECFA No.： 該当なし
別名： —
構造式： —

1. 基原・製法

ウシ (*Bos taurus* Linnaeus) の骨を炭化し、粉砕して得られたものである。主成分は、リン酸カルシウム及び炭末である。

2. 主な用途

製造用剤（無機塩類の吸着作用による糖液の脱色、水の濾剤等）

3. 流通実態

1) 消除対象

対象外

2) 流通実態

令和元年度における日添協等を対象とした生産量調査では、製造量及び出荷量は 1,279,150 kg であった（平成 29 年度実績）¹⁾。令和 3 年度における調査では報告がない。

3) 食品添加物公定書の規格

規格あり

4. 安全性試験の概要

1) 急性毒性試験

急性毒性試験として経口投与の情報なし

2) 反復投与毒性試験

反復投与毒性試験として経口投与の情報なし

3) 遺伝毒性試験

細菌 (TA98、TA100、TA1536、TA1537、WP2uvrA/pKM101) を用いた復帰変異試験は S9mix の有無に関係なく全て陰性であった。チャイニーズハムスター細胞 (CHL) を用いた染色体異常試験は、S9mix の有無に関係なく全て陰性であった。BDF1 系雄マウスを用いた経口強制投与による *in vivo* 小核試験は骨髓小核誘発性陰

性であった²⁾。

復帰突然変異試験、染色体異常試験及び小核試験の結果はすべて陰性であった。

4) その他

その他試験に関する情報なし

5) 海外評価書における扱い

海外での評価情報なし

5. 検討結果のまとめ

骨炭は、反復投与毒性試験による評価はないが、ウシの骨を炭化し粉碎して得られたものであり、無機塩類の吸着作用による糖液の脱色、水の濾剤として使用される。したがって、使用用途から食品中への骨炭の残存は意図されておらず、食品中での残存量は極めて限られるものと考えられることから、一般毒性学的な懸念は低いと思われる。また、入手可能な安全性情報において遺伝毒性は陰性である。

以上より、本添加物の使用用途においては、ヒトの健康影響に対する懸念は低いと結論された。

6. 参考資料

1. 佐藤恭子：生産量統計調査を基にした食品添加物摂取量の推定に関わる研究
その 2 既存添加物品目、令和元年度厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）「食品添加物の安全性確保に資する研究」分担研究「食品添加物の摂取量推計及び香料規格に関する研究」、2020
2. 第 9 版品添加物公定書解説書 2019